

進捗状況の概要（1ページ以内）

学内の実施体制については、「北九州市立大学教育再生加速プログラム運営委員会」で取り組んでおり、教育担当副学長が委員長、本事業の事業推進責任者が副委員長を務めている。その他のメンバー構成は、教務部長、学生部長、入試広報センター長等で組織され、全学的に取り組む体制となっている。本年度は事業の進捗に応じて2回開催した。また、この委員会の内部組織として、実務面を統括する「北九州市立大学教育再生加速プログラム推進室」を設け、事業推進責任者が室長を務めている。こちらは本年度11回開催し、事業推進に取り組んだ。

中心となる取組としては、①学修行動調査の実施とその分析及びフィードバック、②北九大教育ポートフォリオシステムの地域創生学群等での本格導入、③実践型教育における学生多面評価・社会波及効果の測定方法を確立し、地域創生学群等で実践、④学生活動実績認定シートのシステム開発、⑤学生活動実績認定シートの地域創生学群での試験運用、⑥学内FD研修の実施、⑦外部評価委員による評価である。またこれと併せて、本学はテーマⅡの幹事校でもあるため、幹事校業務として、⑧「学修成果の可視化あり方検討会議」及びその実務担当者会議の開催、⑨共同シンポジウムの開催、⑩テーマⅡの実績報告書の作成を行った。

取組の成果としては、①⑥：学修行動調査を継続して実施し、得られた情報等を分析することにより、各学部・学科・学年等での特徴を掴むことができた。また、それらを教員へ開示、研修等で活用することにより、DPの見直しやカリキュラムの見直しの参考とすることが可能となった、②：ポートフォリオシステム導入により、学修成果の自己管理が推進され、DPに対する意識や自己の学修状況等の把握が進み、学生自身による課題発見や目標設定が可能となった、③：多面評価の実施により、学生自身の学修成果の具体的な把握に繋がり、また、社会波及効果の測定により、今後は測定データを分析することで課題等を整理してフィードバックを行う、④⑤：実績認定シートを運用することにより、正課外学修に関する情報を一括管理することが可能となり、また、学生は自己の能力修得状況や実績を把握することにより、自らの成長を可視化して確認できるようになった、⑦：評価を受けることにより、有用な助言を得ることができた。

学内外への波及効果については、上記取組みの⑨について、テーマⅤと共同してシンポジウム（高等教育に求められる質保証を考える）を平成30年2月16日に東京で開催し、高等教育機関を中心に約250名の参加者があった。有識者による基調講演、各テーマ代表採択校による事例発表、パネルディスカッション等を実施した。また、⑩のテーマⅡ採択校による平成26年から平成29年までの取組み状況をまとめた「実績報告書」を作成し、高等教育機関を中心に約800校へ送付し、周知を行った。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、平成29年度より開始した本学の第3期中期計画（H29～34）の中で、学修時間の確保（平成28年度実績に対し1.5倍増加させる）・事前事後学修やアクティブラーニング等の推進・学修成果の可視化による内部質保証の推進を明記した。これらを推進するため、平成29年度には、シラバスへの事前事後学修内容の記載や目安時間の記載を行うようにした。また、アクティブラーニングを推進するためのeラーニングプラットフォームとして「Moodle」を導入し、それらを活用した事前事後学修や授業方法の改善に関する教員へのFD研修を実施し、利用を推奨した。また、学修成果の可視化による内部質保証の推進については、全学的な「内部質保証システム整備委員会」の中で、北九大ポートフォリオシステム等を活用した学修成果の可視化を行うとともに、各種アンケート等も活用し、AP・CP・DPの3つのポリシーに対する本学の取組みに関するアセスメントの仕組みを構築し、PDCAサイクルを機能させ、内部質保証に取り組むこととした。